

○ガツサシクロゴケ(新稱)及びライテウゴケ第二の産地について(樋口利雄)

Toshio HIGUCHI: On *Andreaea falcata* and *Voitia nivalis*.

(1) ガツサシクロゴケ (*Andreaea falcata* Schpr.) (Fig.)

クロゴケ屬は國內に於てはタカネクロゴケ (*A. Fauriei* Besch.) のみを産しイワゴケ (*A. petrophila* Ehrh.) を産する如く傳へられるがこれは頗る疑わしく思われる。兩者とも中肋なき一群 *Euandreaeae ecostae*—に入るべきもので、肋ある一群のものは吾が國內に於て採集した人は未だ獨りもない模様である。筆者が昨夏羽前月山にて採集した品は明らかに中肋のある一種で櫻井教授研究の結果歐洲アルプスに稀に産する *A. falcata* Schpr. であることが解つた。本品はタカネクロゴケより遙に大型で莖長2 cm, 赤味を帯びた黒色の密な蘚座を作つている。葉は一方に鎌狀に曲り恰も苔類の *Schisma* を觀るの觀がある。肋は赤色で伸出し葉身の半以上では屢肋によつて葉身が充たされている。肋上部背面殊に花葉を包むものは鋸齒狀をなしたマミラが列をなして密生している。細胞は上部に於て圓形—方形で、葉身半ば以下に於ては肋に沿ひ細胞は長き橢圓形をなし葉縁に進むに従ひ斜上の傾向ありて卵形である。何れもマミラあり膜は著しく肥厚している。子嚢は缺如しており、雄器内花葉は卵形舟窩狀をなし太き肋の痕跡が見られる。

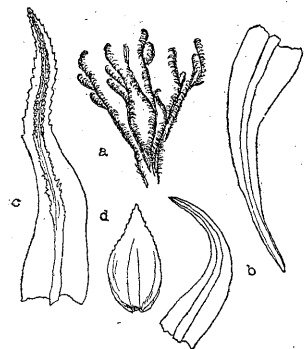
その種名については人により *A. Huntii* Limpr. と同一種とする人あり又 *A. Rothii* Web. et Mohr. var. *falcata* Leb.——とすべきであると主張する人もあるが、筆者の觀る所では本屬中本品程葉の鎌狀を呈するものなくこの點に於て特然たる一種と見做すを正論であると考えられる。湯殿山登山口より登り湯殿山神社手前丹生源泉の附近岩上及び姥嶽より月山神社に至るミネズオウの植生せる岩上にて採集した。

Honshu: Prov. Uzen, mt. Gassan (Leg. T. Higuchi No. 30, 19-Aug.-1951). Species nova ad floram japonicam.

(2) ライテウゴケ (*Voitia nivalis* Hornsch.)

雷鳥ゴケは歐洲アルプスに稀に産する種で國內に於ては 1942 年高木典雄教授が菅平四阿山の岩高蘭群落中に發見されその報告は本誌第 19 卷第 6 號に載つている。

筆者は昨夏岩代吾妻山にこれを採集した。高湯口より登り賽河原より新道吾妻小富士に至る途中ハイマツの間の地上に見出した。兔糞の上に生えるのが多いとされているが確たる證據は得られなかつた。唯何かの糞塊或は動物の遺體上であることは確實の



a) 全形×1
b) 莖上部及下部の葉
c) 雄器花葉を包む葉の裏面
d) 雄器内花葉

ようである。櫻井教授の研究により吾が國第二の産地であることが判明した。

Honshu: Prov. Iwashi, mt. Azuma (Leg. T. Higuchi No. 42 20-June-1951.)
The second locality in Japan.

(福島縣伊達郡富成村立中學校)